

# 鼻づまりやアレルギー性鼻炎に対する重症度に応じた内視鏡下鼻腔手術の長期成績

**単独手術術後アンケート結果  
(2009～2016年に鼻手術を受けられた患者さんへ2017年郵送：  
sample参照)**

2017年3月9日

第29回鶴舞耳鼻科会 口演要旨

(有効回答数:48例)

## 鼻の手術後のアンケート

(大変お手数ですがなるべく、1月末日までにご回答の上、この1枚のみを同封の返信用封筒に入れて「無記名」で投函してください。)

あなた様の今現在の症状について、できるだけ正確にご回答ください。  
質問は5つです。

### I. 手術前を仮に100%とすると

今の**鼻水の量**、ティッシュの使用量は約( )%

### II. 手術前を仮に100%とすると

今の**クシャミの量**、回数は 約( )%

### III. 手術前を仮に100とすると 今の**鼻の通り具合**が半分の(悪い)場合なら50、

倍の(良い)場合なら200として

今の**右鼻の通り具合**は 約( )

### IV. 手術前を仮に100とすると

今の**左鼻の通り具合**は 約( )

### V. 手術後**安定していますか**? または手術後 ( **いつごろ** )**から手術の効果が薄れましたか**?

( )

回答例: 手術後鼻の症状は安定している。  
手術後( )ヶ月目ごろから手術の効果が薄れた。  
今から( )年前ごろから手術の効果が薄れた。  
季節により、または年により手術の効果や症状がちがう、など。

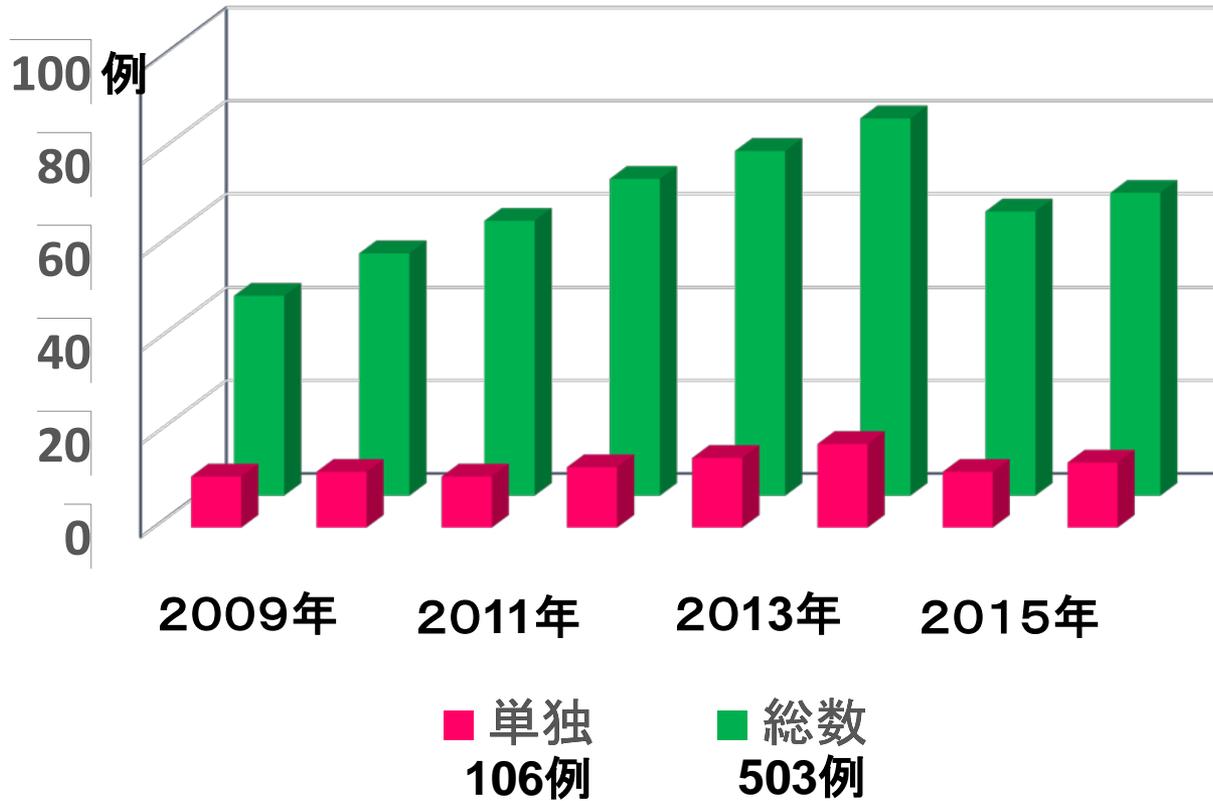
### VI.自由記載欄

( )

※鼻に関すること、耳鼻咽喉科診療に関すること、病院に関すること、何なりとご意見をお願いいたします。ご協力誠にありがとうございました。

106例

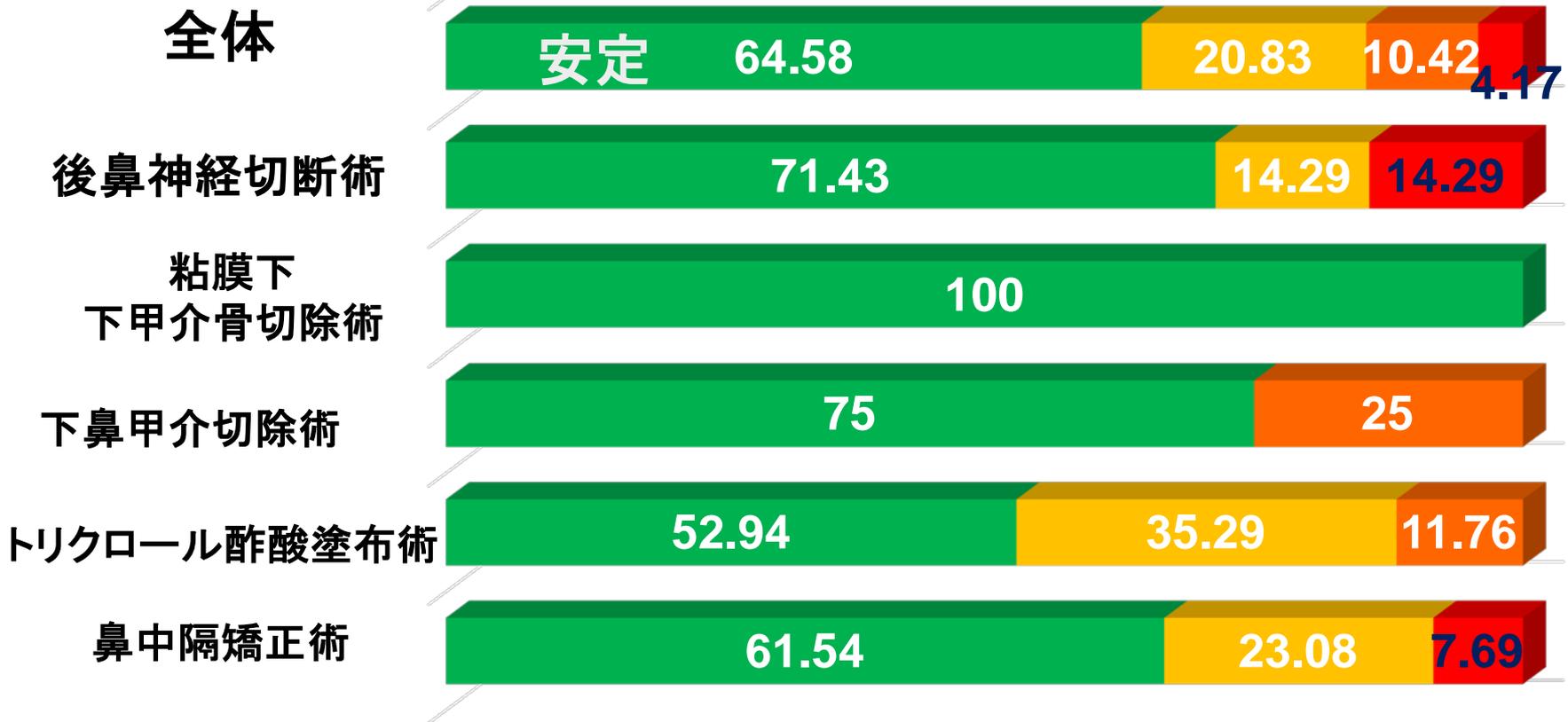
2009年～2016年



手術件数

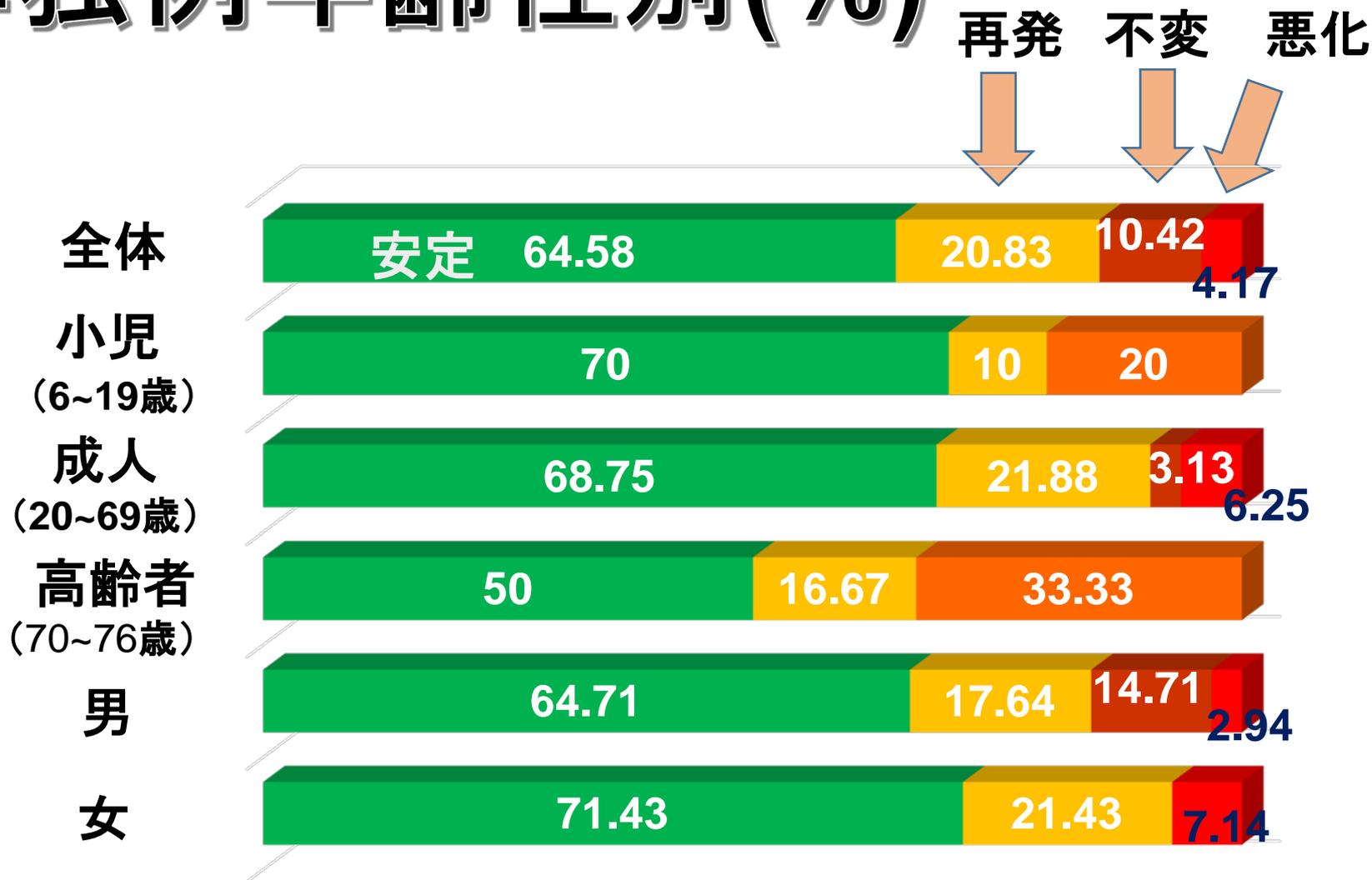
# 単独例術式別(%)

再発 不変 悪化



平均経過月数42.3±28.0ヶ月;平均年齢43.3±20.4歳; 48例

# 单独例年齡性別(%)



平均経過月数42.3±28.0ヶ月;平均年齢43.3±20.4歳; 48例

# 術後アンケート結果

## 結 果

1. 術後平均約3.5年のフォローアップ:約2/3が再発なく安定
2. 水性鼻漏とくしゃみは術後平均3.5年で 約50%に減少し、鼻の通気は約150%に増加した
3. 術式ごとの短期成績に大差なし
4. 術式ごとの有効性の差は1年以上の経過で現れる

## 問 題

1. 高齢者を中心に無効例があり、事前説明が望まれる
2. 再発はトリクロール酢酸例に多くあり粘膜下鼻甲介例に少ない傾向がある
3. 術前になかった副鼻腔炎が術後に4. 2%発症しており、事前説明が望まれる

# 鼓膜形成術における内視鏡下中耳手術)の位置づけ



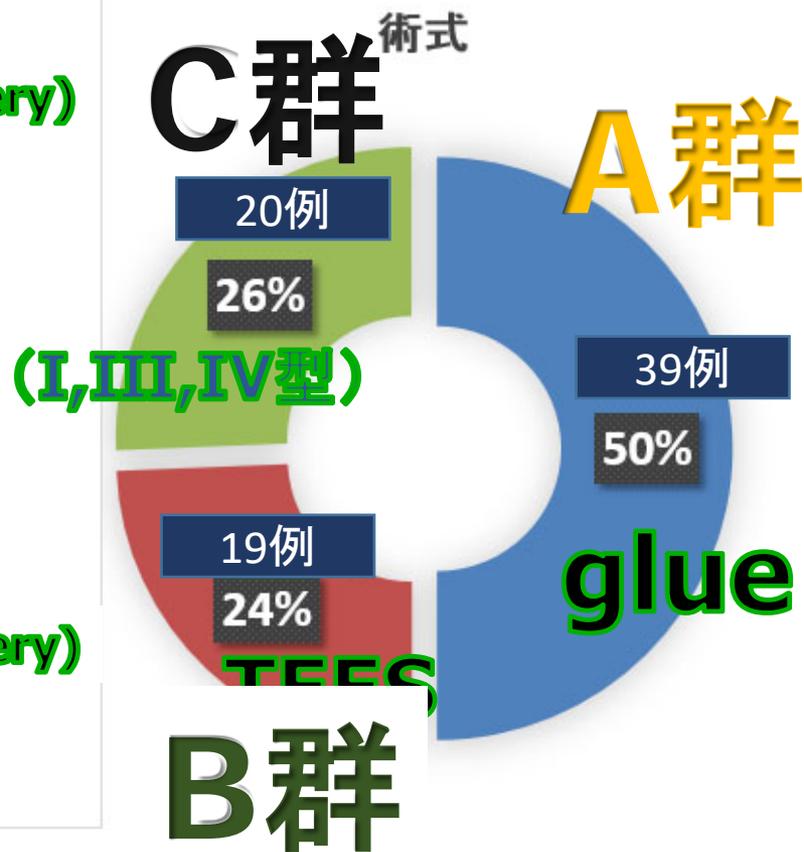
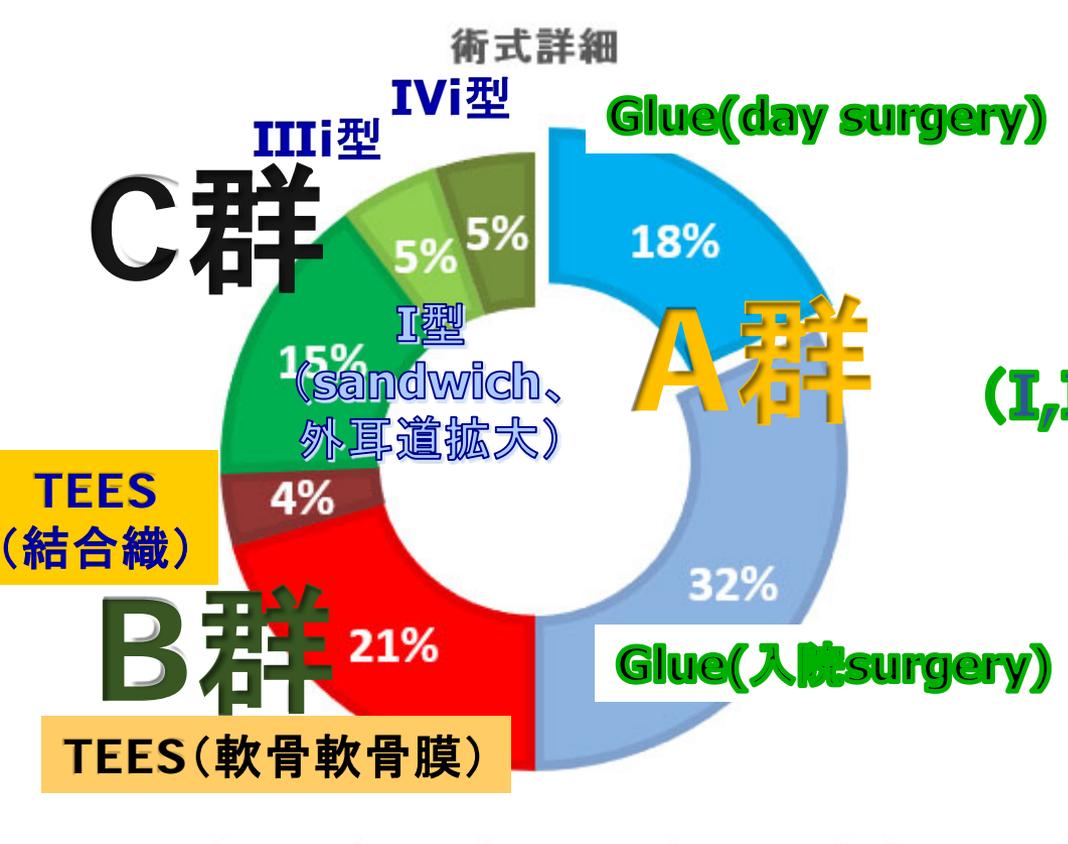
平成29年5月18日  
「第118回日本耳鼻咽喉科総会学術講演会」  
要旨



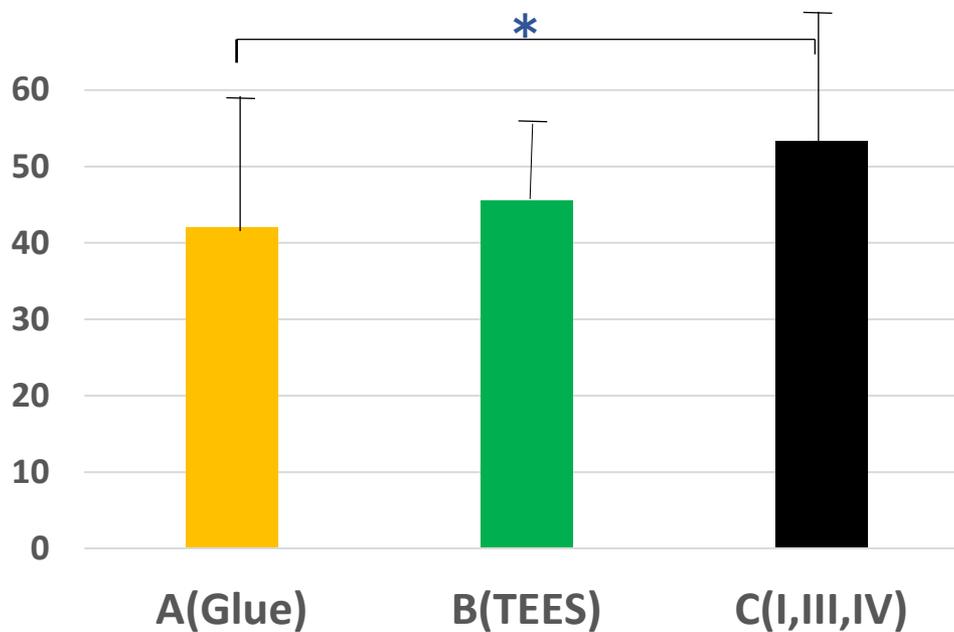
独立行政法人 国立病院機構 名古屋医療センター

○三澤逸人、小林圭一、森永麻美、  
石岡麻優、竹内佑介、伊藤智史

# 【鼓膜穿孔治療法：(非真珠腫)7年間】

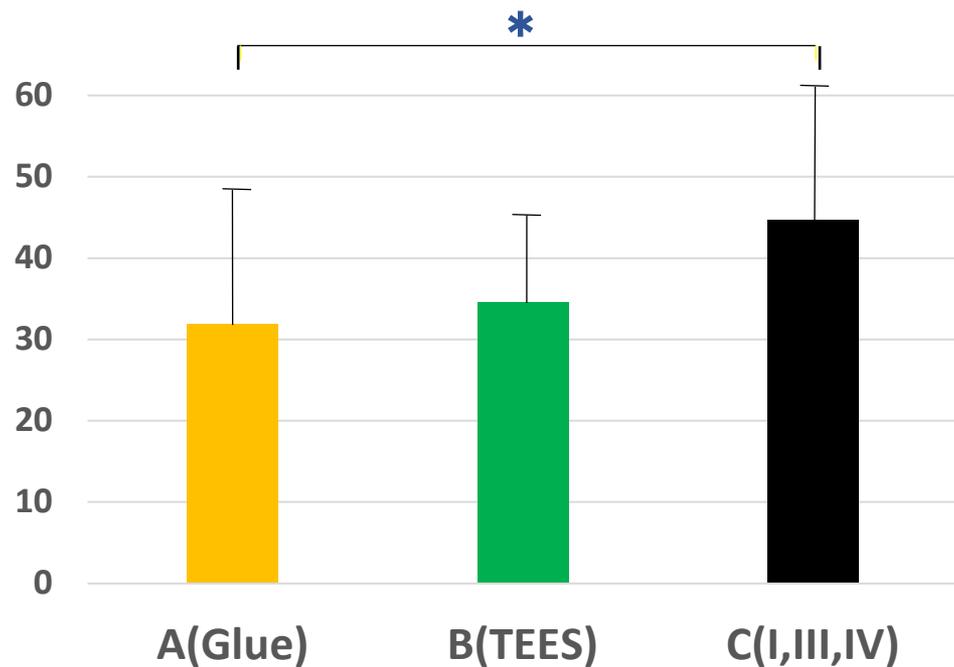


術前聴力



TEESはほぼ中間

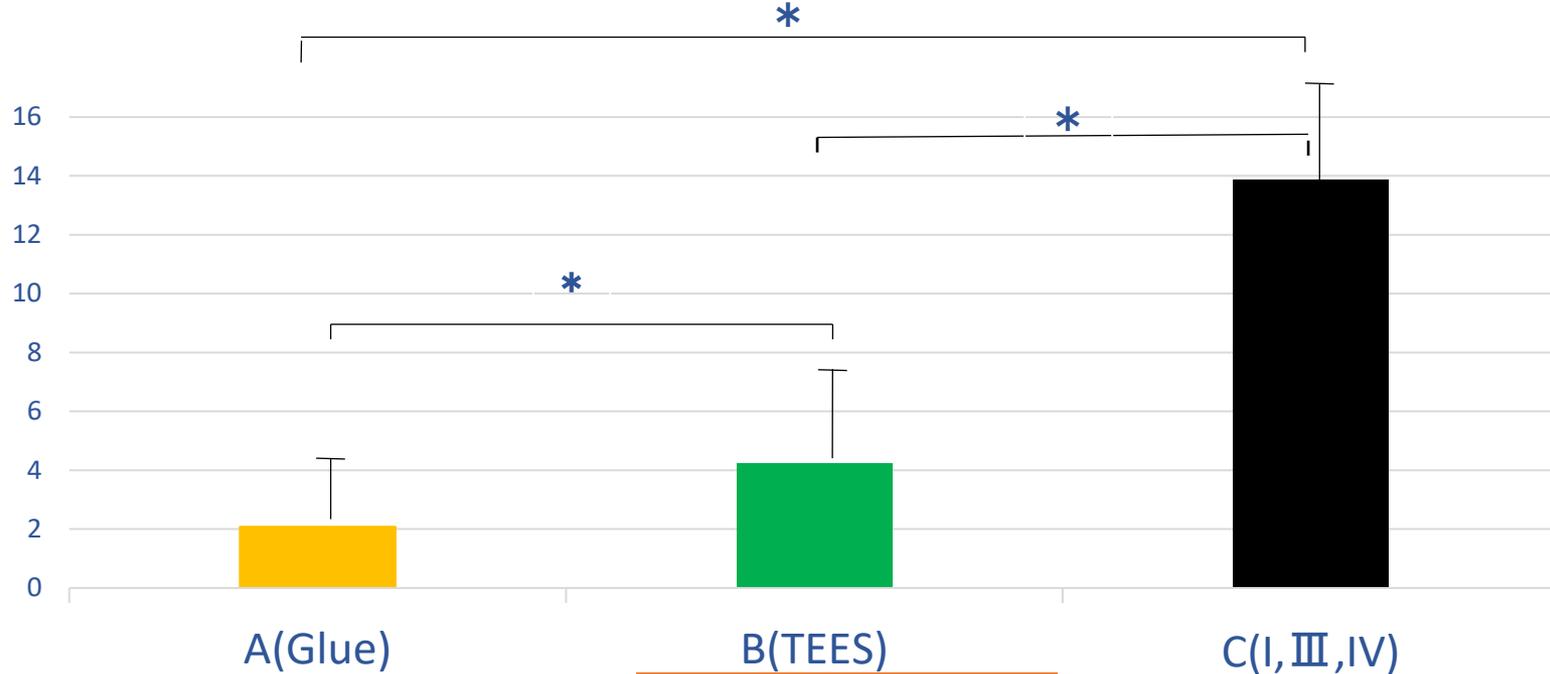
術後聴力



TEESはほぼ中間

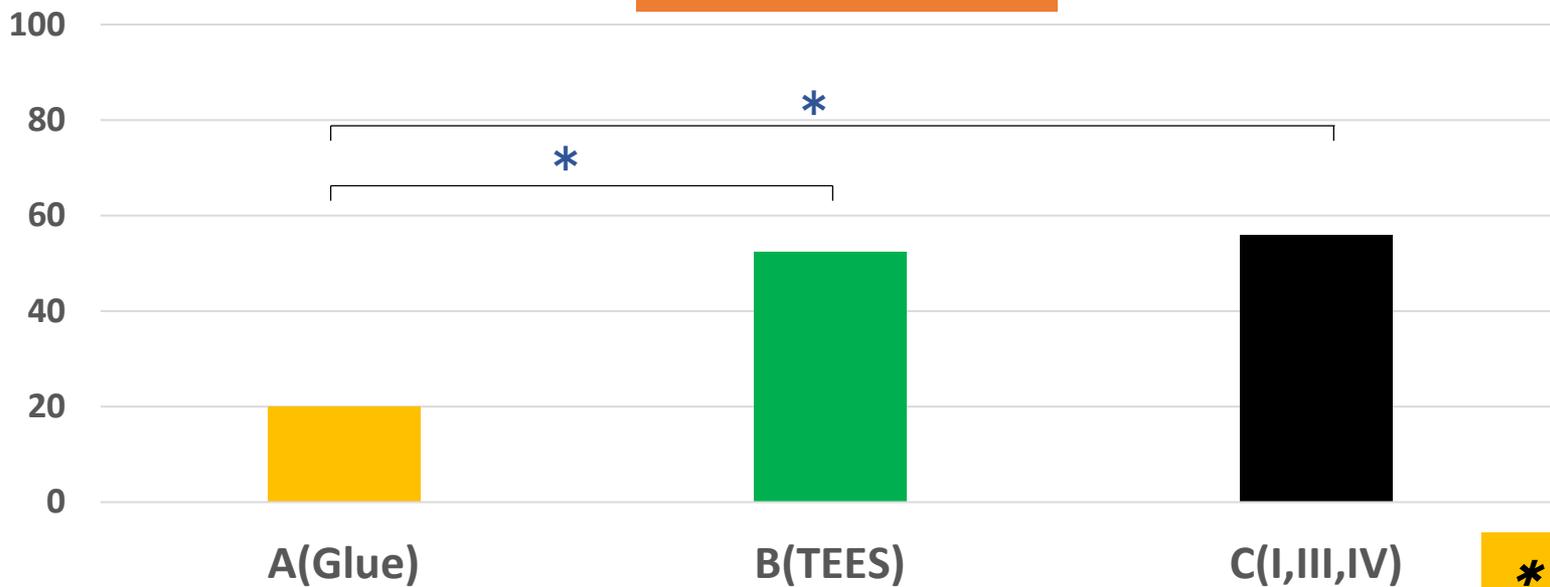
\* < 0.05

入院日数(日)



TEESはほぼ中間

全身麻酔(%)



\* < 0.05

# 【鼓膜穿孔に対して市中病院のTEESはどうあるべきか】

- 穿孔： 日帰りできない、大きめ、全周がMicroで見えない
- 難聴： Patch test(+)、伝音再建・あぶみ骨周囲の操作不要
- 中耳手術においてMicroscopicESとTEES両者の長所および短所を良く理解し、患者さんと相談し説明と同意を得た上で、CT上最狭部直径：5mm(または4.5mm)以上が適応と言える

## ■ 4つのアプローチ

＜ TEES assisted MicroES/ MicroES assisted  
TEES vs TEES vs glue ＞

現時点での推奨症例

TEESのtarget病変：  
耳小骨病変のない中等度病変

＜＜略語説明＞＞

MicroES＝顕微鏡下中耳手術

TEES(transmeatal endoscopic ear surgery)＝内視鏡下中耳手術

glue＝鼓膜穿孔接着法(湯浅式)